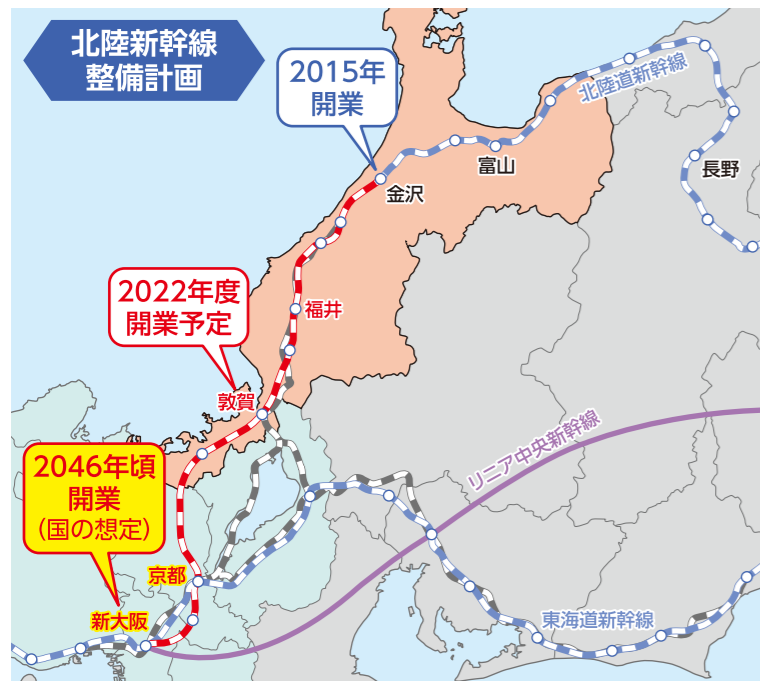


早期全線開通で北陸新幹線の効果が最大化

所要時間短縮

- 北陸新幹線の全線開通により、北陸各地から大阪までの所要時間は大幅に短縮!
- 関西にとって、北陸がより身近な地域に!!



※大阪開業時期は2016年の国交省ルート検討結果資料の想定に基づく。

	大阪へ		東京へ	
	(分) 300	200	0	0
富山	205	180	195	230
	100	150	150	80
	金沢開業前	金沢開業	全線開業	
金沢	105	105	205	205
	55	170		
	金沢開業前	金沢開業	全線開業	
福井	195	130	130	
	130	150	150	
	金沢開業前	金沢開業	全線開業	

※2017.10時点の国交省公表値等をもとに算出。
 ※数値は5分単位で丸めている。
 ※[福井・敦賀→東京]の金沢開業前・開業ケースについては、米原駅経由の東海道新幹線ルート時間。

経済効果算出の考え方

STEP1: 交流人口増加数の算出

- 国交省「全国幹線旅客純流動調査」に基づき、算出。
- 時間短縮により、観光・ビジネス等の移動に関して、関西・北陸地方と全国との交流人口が増加。
 - 北陸新幹線の利用に関する意向調査結果や新幹線沿線地域の経済状況の変化予想(企業立地、宿泊施設の 신설等)を反映。

[A] 交流人口の増加

[B] 消費単価

- (観光庁調査より)
- 宿泊費
 - 飲食費
 - 交通費
 - 土産・買物代
 - 入場料・娯楽費他

全国への経済波及効果

【直接効果】

STEP2: 消費増加額の算出

- 交流人口の増加数と消費単価を掛け合わせ、北陸新幹線が開通することによる消費の増加額を算出([A]×[B])。
- さらに時間短縮による滞在時間増加も反映。

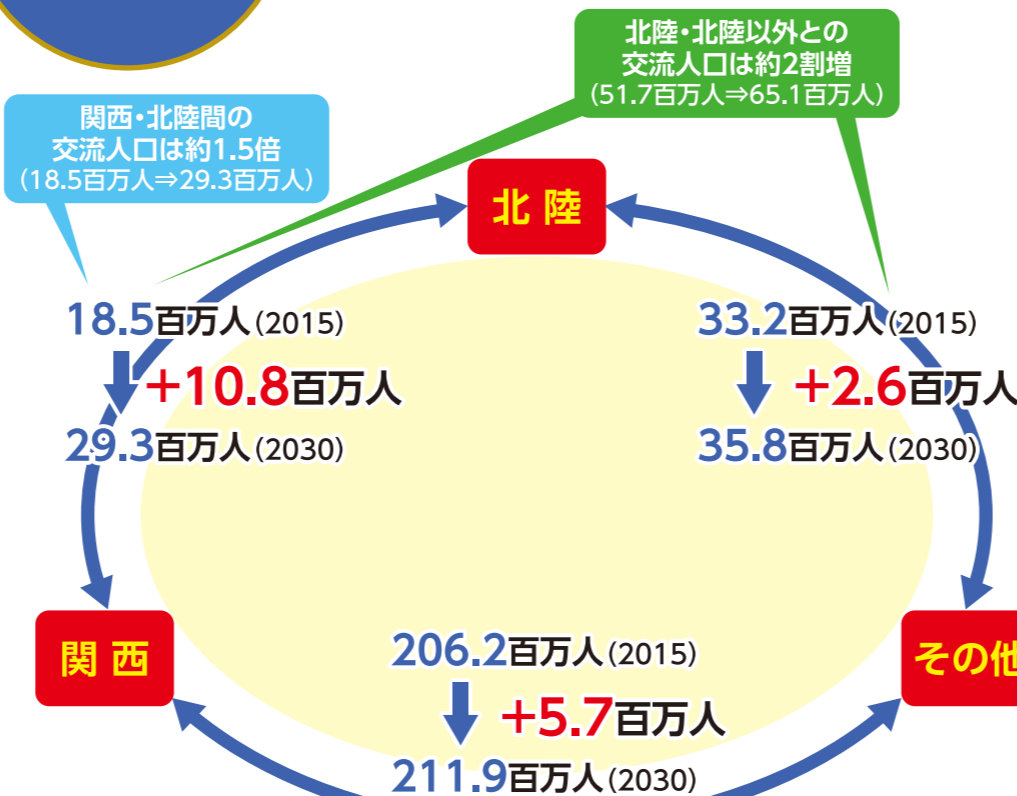
【間接効果】

- ### STEP3: 経済波及効果の算出
- 産業連関分析に基づき、消費の増加が生産の増加にも波及することを踏まえた経済効果を算出。

関西・北陸の交流人口増加

金沢開業時(2015)⇒全線開業(2030)の比較

北陸新幹線全線開通等により約1,910万人増加!
 移動時間短縮により地域間交流が活発化!



全国への経済波及効果

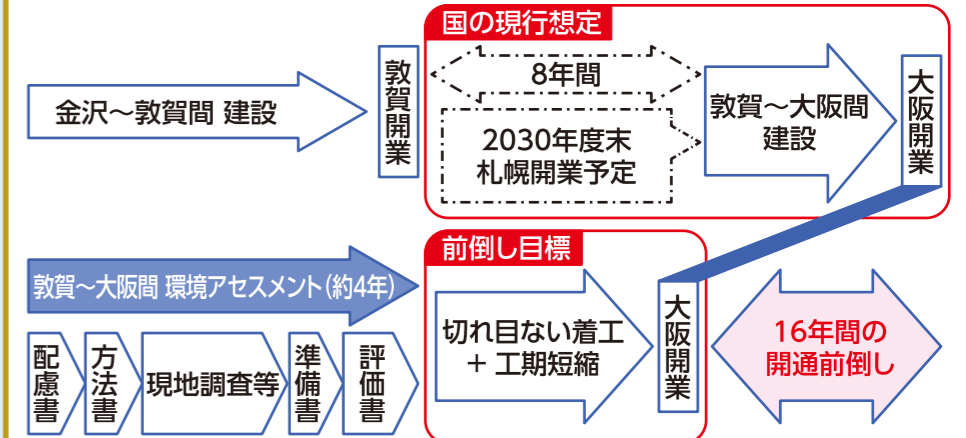
北陸新幹線(敦賀～大阪)整備による経済波及効果は年平均約2,700億円!

国の現行想定である2046年から2030年に前倒しされると、...

前倒し期間全体で約4兆3千億円の経済波及効果が発現!
 (直接効果: 約2兆円 間接効果: 約2.3兆円)

※経済波及効果は、北陸新幹線等整備による、国内における交流人口変化、インバウンドの目的地変化に基づき算出。
 ※2030～2036年は「リニア中央新幹線:名古屋」「北海道新幹線全線」が、2037年以降は「リニア中央新幹線全線」が開通している状況下における北陸新幹線(敦賀～大阪)開業による効果を算出。
 ※将来の人口減少、インバウンド需要の増加(観光ビジョン(観光庁)の目標値に基づく)による需要変動を考慮。

2019年度 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31～45 46



大阪 - 北陸 - 東京を直結することで本来の機能を発揮!